

新品種紹介

サイレージ用F<sub>1</sub>トウモロコシ

府県向

# パイオニアF号 (P3965A)

## 来歴及び経過

米国パイオニア社で育成され、昭和53年より弊社千葉研究農場でテストを開始、昭和55～56年の2カ年にわたって東北・高冷地を中心とした現地試験および公的試験を重ね、その結果、超極早性グループの中ではゴマハガレ病に強く、短期間で高収量が生産できる優良品種と判定され、自信を持って今春より新品種として販売することに致しました。

## 品種特性

パイオニアF号  
P3965A (RM95)超極早生

交配様式 三系交配  
育成地におけるRM91

- 1. 早晩性** 千葉ではA号クラスより絹糸抽出期が3～5日早く、収穫期も一週間程度、早まり、A号クラスと匹敵したTDN収量が得られる超極早生多収品種です。
- 2. 初期生育** 低温発芽性は極良好で、初期生育も優れ、東北地方あるいは高冷地の栽培に適した特性をそなえています。
- 3. 耐病性** 特に暖地で問題となるゴマハガレ病にも強く、二期作栽培にも活用でき、スモモン病・黒穂病にも抵抗性を有しています。
- 4. 耐倒伏性** 短程で倒伏に強いが、黄熟期を過ぎると枯上りととの関係で倒伏・折損が発生することもあり、適期収穫がポイントです。
- 5. 利用性** ・東北及び山間高冷地帯、特にA号クラスの不安定地域での安定登熟品種として最適です。



パイオニアF号の草姿  
短程・雌穂位置低く、耐病・耐倒伏性。

- ・混播草地、特に老朽化低収草地を更新する場合、1番牧草利用後のF<sub>1</sub>トウモロコシ導入が有利で、生育期間が短かく収量性の高いF号が最適です。(F号収穫後牧草を新播します。)
- ・F<sub>1</sub>トウモロコシ二期作栽培では、一期作にウエイトをかけざるを得なく、二期作目の登熟不良のケースが多い。そのような状況の下では、A号よりさらに早生で耐病性にも優れるF号の利用が好適です。



パイオニアF号の雌穂  
雌穂の揃性・登熟性が優れ、DM中の雌穂割合が高い。